様式3

学校番号

特4

令和５年度　学校評価書　（実施段階）

福岡県立特別支援学校「北九州高等学園」

自己評価

学　校　運　営　計　画（4月）

学校運営方針	幸福度日本一の特別支援学校を目指して、授業改善を推進することで「分かる授業」「楽しい授業」の実践を図り、すべての生徒が主体的に学び自らの可能性を引き出すとともに、生徒一人一人の人権を尊重した教育活動を行う。	評価（総合）

昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標
【成果】 生徒一人一人に応じた自己肯定感・自尊感情を育む教育活動の実践 【課題】 ・社会的・職業的自立の力をつけるための教育課程編成及び授業改善 ・生徒指導・生徒支援についての役割の明確化 ・現場実習や就業体験の実習先情報の蓄積 ・卒業後の食生活に目を向けた指導の充実	【一歩前へ】：主体的な学びに向けた授業改善	①カリキュラムマネジメントの充実　②生徒が自ら考え・判断し主体的に学ぶ授業の実践(個別最適な学びと協働的な学びの実践)　③知的障がい教育及び教科教育の専門性向上　④障がいに伴う困難を改善・克服する自立活動の充実
	【社会に一番近い学校】：３年間を見据えたキャリア教育の充実	①個に応じたキャリアカウンセリングの充実　②職業学習を中心とした基礎的・汎用的能力の育成 ③学校・寄宿舎における生活スキル向上に向けた指導・支援の充実
	【北学魂】：相互の協力による生きる力の充実	①年間計画に基づいた「総合的な探究の時間」の充実　②就業体験・現場実習等、社会の中で学ぶ機会の充実 ③学校行事等、生徒が主体的に活動できる機会の充実
	【仲間との絆】：人権教育、道徳教育の充実	①自己を見つめ、物事を多角的に考え、自己の生き方について考えを深める授業の計画的な実践 ②一人一人が大切にされる授業の実践　③「いじめ」のない安心・安全で思いやりのある学校づくり
	【チーム北学】：社会に開かれた学校づくり	①家庭・地域・会社・関係機関との連携・協力の充実　②交流および共同学習の充実、地域の催しへの積極的な参加 ③特別支援学校のセンター的機能の発揮と必要に応じたネットワーク機能の活用

B

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価（３月）			次年度の主な課題
教務部	教務課	「分かる授業」「楽しい授業」の実践を目指し、授業の質の向上を図る	教科・職業部会を定期的に開催し、日々の教育活動においての課題を見直す機会を設定する。	B	B		毎月定例で教科・職業部会を設定したが、全体共有の場が紙面で1度だけだったので、次年度は定期的に全体で改善点等を共有できるよう会を設定する。
			授業で有効なICTの活用法を提示し、更なる積極的な活用を促す。	B			11月からICT支援員による研修会を開催した。来年度は年度当初から計画をし、職員全体のICTに関するスキルアップを図る。
	庶務課	PTA、振興会、同窓会との連携による円滑な組織運営と活動内容の改善	各分掌担当者と連携を図り、活動に必要な情報を共有しながら活動の企画運営を進める。	B	B		進路指導課と連携した活動を実施できた。保護者等が必要とする情報を各活動の中で把握し、各分掌と連携を図ることで実施する行事の内容を深めていく。
			各団体の組織や活動について改善点を検討し、見直しを図る。	B			PTAについては、負担軽減に向けた組織改善を行うことができた。同窓会、振興会については、運営方法の改善や規約改正を含め具体的な提案を行う。
	１学年	生徒一人一人が学校生活に適応し、自他ともに大切にできる心の育成	学習目的を明確にし、その授業で生徒に何を身に付けてもらいたいかを教科等横断的な視点で共有する。	B	B	B	各教科でどんな力を身に付けさせたいかを明確にし、定期的に学年内で共有する時間を設けるように努める。
			褒めた・認めたこと等をTeamsで情報共有し、他の教員が積み重ねることで生徒の自己有用感を高める。	B			学年部会だけで情報共有を終わるのではなく、ICT環境をより充実させ、生徒一人一人の自己有用感を学年の全職員で積み重ねることに努める。
	２学年	自他の良さを認め合える人間関係づくりの育成	学習の意図を教員間で意見交換し、生徒が学ぶ意義を実感できる授業を行う。	B	B		各教科の取組みの意図を学年内で伝えあえる機会を作り、教員同士の授業内容を高める機会とする。
			学年委員を構成し、教員と生徒の意見をすり合わせながら、より良い学年を作ろうとする意識を育てる。	B			学年行事を中心とした生徒の主体的活動を引き出す取り組みにより高まった生徒の意識を日常的な活動に生かせるような学年委員の組織作りを行う。
	３学年	社会参加を見据え、自ら考え主体的に行動する態度の育成と自他を認め、大切なことを伝え合える人間関係づくり	リーダーを中心に生徒同士での課題解決や学年の運営・行事の企画に主体的に携われるように、話し合い等の機会を設ける。	B	B		行事や学年集会の運営に主体的に携わる様子が見られた。生徒の実態、身につけるべき力、取り組みの意図や背景を学年・各教科で共有し、生徒にも発信する。
			生徒・保護者の進路のニーズを細かく把握し、生徒自身が自分の特性や障がいの状態等を捉えて進路選択できるように促す。	B			①特性や良さ・課題②必要な支援③就職形態や条件等を段階的に生徒及び保護者が理解できるように、進路学習や実習、面談、自立活動等を仕組む。
生徒指導部	生徒指導課	これからの時代に対応するたくましい力と自己課題能力の育成	可能性を引き出すような自己選択・自己決定の場を用意し、責任感を育む。	B	B	B	学校行事を中心に、生徒が企画・運営を担う機会を多くつくることができた。次年度は生徒会役員を中心に更なる充実を図る。
			教員から挨拶を励行し、生徒たちにとって一番身近な社会人としてのモデルとなる。	B			挨拶の励行については、徐々によくなりつつあるが、まだまだ十分とは言えない状況である。次年度は全職員で共通理解を図り、更なる推進に努める。
	人権教育	障がい認識（障がい受容）の促進と人権意識の向上	教育活動全体を通して、様々な場面で人権尊重の態度と実践力を育成する。	B	B		課題を踏まえて設定した「言語環境を整える」取組が次年度も必要な状況である。人権教育を中心にしつつ、生徒会活動等とも連携した取組に努める。
			生徒会を中心に生徒・職員が一体となって「いじめ」を絶対に許さない安全・安心な学校づくりを進める。	B			いじめ防止等対策委員会を定例化し、早期対応に努めることができた。次年度は生徒会活動とも絡めながら安心・安全な学校づくりの推進を図る。
	保健課	心と体に向き合い、自らの健康課題に気付き、自分らしい健康な毎日を過ごすことができる力の育成	生徒自らが自分の体と向き合うことで日常生活や生活実態における健康課題に気付き、心身の健康保持増進・健康管理を実践できる力を養う。	B	B		生徒自身が自分の健康や健康管理に興味を持ち実践できるように、卒業後の生活を見越した指導の充実を図る。
			食事は健康・社会のマナーやルール・心身の安定と深く繋がっていることに気付き、卒業後の食生活にも目を向けた指導の充実を図る。	B			今年度実施した食育を活かして、生徒が主体的に日常の食生活の中で実践できる力を養う。
	寮務課	基本的生活習慣や集団生活への適応力の確立及び自治活動や余暇活動の充実による楽しさや充足感をもって生活する力の育成	社会生活に必要なスキルを身につけるため段階的に指導を行うとともに、家庭及び学校内外の関係諸機関と連携を密にし支援体制を整える。	B	B		生徒が寄宿舎生活の中で、どのような力を身につけたいか個別に目標を明確にして、生徒が目標を意識しながら生活できるように努める。
			生徒が主体的に取り組める自治活動や余暇活動を充実させ、様々な体験を行う中で役割を果たすことや仲間と協力することの大切さを知り、楽しさや充足感をもって過ごすことができるようにする。	B			寄宿舎の行事や活動について、生徒の負担軽減と集団参加が苦手な生徒の対応等を踏まえた行事の実施回数や時間、生徒の参加方法など行事の精選を図る。
進路指導部	進路指導課	自己の特性や適性を理解し、主体的に進路を選択する力の育成	就業体験・現場実習・進路に関するＨＲ等、系統的な進路指導を実施するとともに、挨拶の指導の充実を図る。	B	B	B	各学年の取組に関する工夫等を全体に共有し、指導に生かすことができるよう努める。また、挨拶については継続した指導と指導方法に工夫が必要である。
			進路指導に関する情報の蓄積及び教員間での共通理解を図るとともに、学年保護者会で保護者への情報提供に努め、保護者進路研修会を計画・実施する。	A			進路指導に関する情報について、生徒や保護者への情報提供の内容や方法を検討するとともに、教員間おける共通理解についてもより良い方法を模索する。
研修部	支援研修課	校内支援・センター的機能の充実及び知的障がい教育に対する専門性の向上	必要に応じて迅速にケース会議を行うとともに、教育相談や巡回相談についての広報活動を行い、関係諸機関との連携を深め、校内支援の充実及び地域における特別支援教育のセンター的機能を発揮する。	B	B	B	全職員が支援や連携に関する専門性の向上を図り、生徒一人一人の特性に応じた支援のより一層の充実を図る。
			月１回の校内研修日のより一層の充実を図り、教員一人一人の専門性の向上を図る。	B			多様なニーズに対応できるように、次年度も各分掌が担当して行う職員研修を年度当初に把握し、計画的に実施できるように努める。
事務部		経営参画型の事務室業務の推進	各分掌と情報の共有を図り、生徒・保護者のニーズに応えるため、より効果的な予算の編成・執行を行う。	B	B	B	予算削減及び物価高騰により一層メリハリのある予算執行が求められる。
			生徒・保護者に対して、より分かりやすい内容で情報発信する。	B			就学奨励費や校納金について、より分かりやすい内容での情報提供が必要である。

自己評価及び学校関係者評価委員会の評価をもとにまとめた今後の改善策

・教育活動におけるＩＣＴの活用推進
・生徒の主体性を育む指導の充実
・教職員の専門性向上
・保護者と教職員のさらなる連携強化

学校関係者評価

評価（総合）	自己評価は
B	Ａ：適切である Ｂ：概ね適切である Ｃ：やや適切である Ｄ：不適切である

項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
B	・各教科だけでなく、ICTなどの活用により、卒業後を見据えた教育の充実を図っている。 ・今後もICT活用の取り組みを頑張ってほしい。 ・将来の自立に向けた日々の指導に感謝している。今後も保護者との連携強化を望む。
B	・学校内での活動だけでなく、生活面においても生徒の自律を目指した温かい指導がなされている。 ・個々の特性があり、関わりの難しいところもあると思うが、生徒の可能性を信じてこれからも指導をお願いします。 ・生徒の主体性をうまく汲み取り、本人たちの達成感向上のために、たくさんの声掛けやフォローをお願いしたい。
B	・卒業後、自信を持って取り組めるよう指導をお願いしたい。 ・保護者との連携を図り、良い取り組みが行われている。
B	・教職員の専門性向上をお願いしたい。 ・一人一人の将来のために、特性に応じた対応や学習の充実を図ってほしい。
B	・分かりやすい情報発信をお願いしたい。 ・価格高騰の中、予算の編成・執行が大変だと思う。

評価項目以外のものに関する意見

・コロナ前後で生活様式や人との関わり方も新しく変わり手探りでの学校運営であったと思うが、前を向いて一歩一歩を積み重ねていた。今後も何かと難しい局面もあるかと思うが、取り組みを進めてほしい。